

芸術学科 夏の最終講義

2023 年 8 月 26 日 (土)

和光大学 J 棟 301 教室

開場 14:30 開演 15:00

名譽教授
三上豊先生

「海外フィールドワークから」

三上 豊 先生

山本 直彰 先生

「たまことまこと一球子と箴言」

戻ってくる不名誉教員たち！

三上 豊 先生

1951年町田市に生れ、小学校から大学まで町田市内で過す。和光大学人文学部芸術学科卒業。(株)美術出版社に勤務『美術手帖』副編集長などをつとめる。2000年より、和光大学表現学部芸術学科教授。2020年3月退任。その間、独立行政法人国立美術館の評価等に関する有識者会議委員、アート・ドキュメンテーション学会評議委員、町田市国際版画美術館運営協議会委員等を歴任。和光大学内では、入試実施委員長、表現学部長などを歴任。またアートドキュメンテーションをライフワークとし『鞆ギャラリー：1978-1985』、『田村画廊・真木画廊：1969-2000』、『秋山画廊：1985-2018』などギャラリーの活動記録を私家版として発行。『辰野登恵子アトリエ』『麻生三郎アトリエ』など画家のアトリエの記録も残す。尚、三上ゼミは、15時以降は教員は飲酒可であった。退任時には名誉教授号を拒否。



山本 直彰 先生

1950年神奈川県に生まれる。1969年愛知県立芸術大学日本画科に入学し、愛知県立芸術大学で院展のゲテモノと言われた異端の片岡球子、4年次からは表現的な作風の大森運夫に学んだ。在学時から新制作協会展に、のち創画展に出品。1975年同大学大学院修了。1992年から1年間、文化庁芸術家在外研修員としてプラハに滞在。90年代には一連の日本画ブームがあり、伝統的な日本画とは一線を画す傾向が注目を浴びるが、中上清、岡村桂三郎らとともにその代表的な画家に数えられる。90年より2021年3月に定年退任するまで、某大手美術大学専任教員のイスを拒絶し、和光大学にとどまり芸術学科非常勤講師、として日本画ゼミを担当。毎年夏休に開催する通称「夏の会」には歴代の卒業生が集まる。2009年平塚市美術館にて個展「日本画の今 山本直彰展 帰還する風景。」開催。翌2010年芸術選奨文部科学大臣賞、神奈川文化賞受賞。某大手美術大学造形学部日本画学科客員教授、特任教授も兼務。

